

全国協議会 ニュース

2019年2月1日発行 第320号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KTビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
http://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

「若年ドナーのリクルート」

～若者に聞くことが一番大切～

1月20日(日) 大学生グループ Colonb's のメンバー 3人が全国協議会に来訪し、「若年ドナーのリクルート」についての提案と意見交換を行いました。やはり、若者への対策を考えるうえで一番大切なことは、若者自身に聞けば良いことを実感させられました。今後、大学生の調査と提言が実現できますよう、全国協議会も連携支援していきます。提案の要旨を紹介します。

Colonb's は、東京大学、東京医科歯科大学、千葉大学、多摩美術大学の医療学生とデザイナー学生が、デザイン×医療×テクノロジーが融合する場を作り、医療の課題に対して「人」を中心とするソリューションを発信し続けることで、多分野協働が当たり前となる未来の医療を作ること。

進行中のプロジェクトに「在宅医療の子供達に安全なベッドサイドを」、「インスリン治療のイメージを変える」がある。今回、「若年ドナーのリクルー

ト」提案を行うこととなった。

プレゼンの後半では、海外の骨髄バンク Web サイトを実際にみて、HPの分かりやすさ、今やオンライン登録とスワブによる検体採取(口腔内粘膜)による DNA 検査が、世界的に一般化していることを実感しました。

日本骨髄バンクが課題としている点

1. 若年ドナーのリクルート
2. ドナーの提供意思の維持
3. コーディネート期間の短縮

特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会

第10回役員選考のための第1回告示

2019年度及び2020年度役員を選考を「役員選考規程」に基づき行いますので、下記の通り告示します。

2019年1月24日

役員選考委員会委員長 野村正満

1. 役員選考委員会

委員長：野村正満 委員：大谷貴子、笠原慶一、菅早苗、新田恭平、水谷久美、上江洲富夫 以上7人

2. 役員任期

2019年7月1日～2021年6月30日

3. 役員の種類と員数

会長1人、副会長3人、理事14人(正会員の推薦を要する理事・全国区3人・各地区8人、推薦を要しない公募理事3人)、監事2人

理事の地区定数(北海道1人、東北1人、関東甲信越2人、東海北陸1人、近畿1人、中四国1人、九州1人)

4. 役員選考日程

第1回告示

2019年1月24日(木) ホームページに役員選考告示を掲載

(全国協議会ニュース2月号にも掲載)

* 役員推薦書、公募理事の立候補届などの配布(正会員へ郵送配布)

役員推薦書、立候補届の受付開始

2019年2月1日(金)

役員推薦書、立候補届出の締め切り

2019年3月3日(日) 必着

第2回告示

2019年3月18日(月) ホームページに役員選考結果を掲載

(全国協議会ニュース4月号にも掲載)

全国骨髄バンク推進連絡協議会総会

2019年5月19日(日) 役員選出

5. 役員推薦書、立候補届の注意事項

- (1) 必ず所定の届出書に記入して提出してください。届出書は下記の役員選考委員会事務局に請求するか、ホームページからダウンロードしてください。
- (2) 届出書に押印のうえ推薦書、立候補届を必ず簡易書留で郵送してください。
- (3) 役員推薦に必要な推薦者(正会員)の数は、会長3団体以上、副会長2団体以上、監事1団体以上、全国区推薦理事1団体以上、地区推薦理事 地区内1団体以上です。公募理事に推薦者は不要です。
- (4) 役員推薦にあたっては、候補者本人の内諾を得たうえで推薦してください。以上

<連絡先 役員選考委員会事務局>

〒101-0031

東京都千代田区東神田1-3-4 KTビル3階
全国骨髄バンク推進連絡協議会内

ドナーリクルートの取組の現状

認知度向上

- イベント (語り部講演会など)
- CMの活用 (AC ジャパンなど)
- SNSの活用

理解度の向上

- 映像素材の活用
- 公式ホームページの更新

ドナー登録までの段階マップ

1. 知らない ➡ 知る (CM, SNSの活用)
2. 骨髄バンクって何? ➡ イベント、映像素材、公式HP
3. 理解する ➡ 自分には関係ない
4. どうやって登録する? ➡ 登録したいけど、複雑だからまた今度

目標：若年ドナー登録者の増大

どの段階が、登録の妨げになっているか調査の必要性

例：HP訪問数とドナー登録者数の乖離に経年変化があるか?

HP到着前：

若年層にリーチできる媒体は何か? 必要な情報/優先度の整理

HP到着後：

骨髄バンクの理解しやすさの改善

➡ HP、パンフレットの改善

ドナー登録までの手順の簡易化

➡ 登録書記入のオンライン化

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDP(1月15日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2018年12月末現在)

	11月	12月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,061	2,853	493,627	758,473
患者登録者数	239	253	2,930	55,511
移植例数	118	78	—	22,704

■12月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/835人、献血併行型集団登録会/1,941人、集団登録会/42人、その他/35人

■12月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,503人/20代 74,220人/30代 136,149人
40代 211,816人/50代 66,939人

■12月の20歳未満の登録者404人

■12月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：625件

(注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

箱根駅伝、患者さんへエール！全力応援「骨髓バンク」のノボリ多数がはためく



箱根・宮ノ下/商店街沿道の応援風景

今年の活動も、今やお正月のビックイベントとなった「箱根駅伝」の街頭応援から始まりました。「第95回東京箱根間往復大学駅伝競走」が1月2日・3日の2日間開催され、東京、埼玉、千葉、神奈川などから大勢のボランティアの方々が馳せ参じてくれました。

沿道には、骨髓バンクのノボリを多数かかげて、骨髓バンクを知っていただくこと、何よりもテレビを観ている患者・家族の方々に激励のエールを送りました。今年もプルデンシャル生命保険株式会社様から370名もの方々が

寒い中、ご参加くだり骨髓バンクの普及啓発活動に大変なご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

この活動は、関東学生陸上競技連盟様のご理解のもと、箱根・宮ノ下商店街の箱根駅伝応援実行員会の皆さま、読売新聞の読売センター小田原中央の皆さま、鈴廣蒲鉾株式会社様、箱根恵明学園様などのご協力により行うことができました。心から厚く御礼申し上げます。東京・御成門、小田原、箱根・宮ノ下での様子を写真でご紹介します。



御成門・プルデンシャル生命保険の皆さま



小田原・読売センター付近での応援風景



箱根・宮ノ下/ランキングボード前

青島太平洋マラソンでの普及啓発活動 みやざきの会は15周年、頑張っています。



写真前列：完走証書をもつサブバイバーランナーと伴走者の方々

みやざきの会結成当初から続けている普及啓発活動が、毎年12月に行われる「青島太平洋マラソン大会」での活動です。15年前、初めての参加はお姉さんがドナーとなり、骨髓移植を受けて元気になった少年のマラソン参加がスタートでした。会場にブースを

設けて応援しながら啓発活動を行ない、年々盛り上げて来ました。

昨年の12月9日(日)に開催された大会では、フルマラソン完走を目指す「みやざきの会のアイドル・

ゆっきー」が、彼女を支援する二人の伴走のもとチャレンジしました。この伴走の一人は2度の骨髓提供したドナー経験者の方でした。そして福岡、東京、名古屋からは、移植患者のランナーさん達が、啓発ステッカーやタスキをかけて参加されました。また、『私

も10年前に骨髓移植を受けました』と、フルマラソンに参加した兵庫の方からも声をかけてくれました。

そして、なんと全員が完走を果たされました。本当に感動の嵐です！ランナーの皆さん感動を有難う。この空の下にいる全てのドナーさんに伝えたい、ボランティアさんに伝えたい『有難う！』そして、いまこの瞬間も闘病されている患者さんに『次にヤッター！と腕をあげてゴールするのはあなたです！』とエールを送ります。昨年、結成15周年を迎えたみやざきの会は、記念事業として様々なイベントにチャレンジしています。6月に医療講演会を開催し、10月からは記念植樹を県内各地で行っており今年の春まで続きます。みやざきの会も、まだまだ頑張らんといかん！！

(みやざきの会 中村福代)

プルデンシャル生命保険会社「インターナショナル・ボランティア・デー」の一環で、闘病体験談を語る



前列最左 長谷川尚子さん 前列左から5番目 池谷有紗さん

プルデンシャル生命保険株式会社様は、骨髄バンクドナーに対して手術給付金を支払うサービスを日本で初めて導入し、毎年の箱根駅伝での街頭啓発活動のほか、献血・ドナー登録の呼びかけも各地で行ってくださっています。

昨年10月25日(木) 同社千代田第六支社で開催された社員研修会で移植された患者さんが闘病体験談を話されました。

プルデンシャル生命保険株式会社が、毎年10月の第1土曜日に行っておられる「インターナショナル・ボランティア・デー」の一環として、2018年10月25日(木)に、同社千代田第六支社にて、お話をさせて頂くご機会を頂戴致しました。

今から約6年前に、私は突然「急性リンパ性白血病」と診断されました。病気が発覚した際に主治医から言われた言葉は、「骨髄移植が出来なければ

助かる見込みは低い」というものでした。その後、大変な難いことに、入院から約5か月後にドナーさんが見つかり、無事に骨髄移植を行うことができ、現在は元気に過ごせています。

今回、プルデンシャル株式会社の皆様の前でお話させて頂くにあたって、そんな私の闘病経験について、どんな事をお話させて頂こうか、骨髄移植の事に関してどの様にお伝えしようか、と色々悩みながら準備をさせて頂き

ました。当日は、支社長の長谷川尚子さんを始めとする社員の方々が温かくお迎え下さり、リラックスした気持ちで始めさせて頂きました。皆さんが非常に真剣な表情で聞いて下さっている姿を見て、改めて身の引き締まる想いで最後までお話をさせて頂きました。

入院生活を送っていた約5年半前には、「会いたい時に会いたい人に会えて、食べたいものを食べれて、友達や家族と出かけたり、家で家族と過ごすこと」、そんな当たり前に思っていた事も、「遠い夢の様」に感じていた日々でした。そんな当時の自分が「夢の様」に感じていた日々を今再び送る事が出来ているのは、ドナーさんのお陰でした。登壇後に、社員の方々から「骨髄ドナーの必要性を感じた」「ドナー登録をしたい」といったお言葉を頂けた時には、真っ直ぐな気持ちで聞いて下さった皆様への感謝の想いで胸が熱くなりました。それと同時に、自身の闘病体験談を語らせて頂く活動の意義も、改めて感じさせて頂きました。(神奈川在住 池谷有紗さん)



有楽町献血ルーム前で、献血・骨髄バンク登録を呼びかける社員の皆さん

「フルマラソンにチャレンジ」完走しました！

私は、約7年前、『ドナーさんだったかもしれない、ドナーさんと何処かで繋がりのある人だったかもしれない』と思い、知り合ったみんなに「ありがとう」と心の中で伝えています』と、「3回目の手紙」として書きました。

低身長で目立つ身体を活かし、周囲への「知るキッカケ作り」になるのでは？と、みやざき骨髄バンク作製のPR用シール・たすき・Tシャツを身に付け、毎年12月開催の「青島太平洋マラソン」に参加し、3^{キロ}、5^{キロ}、10^{キロ}にチャレンジしてきました。

移植して20年(4年前)、感謝の気持ちとご縁を大切に新しいチャレンジ

を始めました。フルマラソンで公道を走り、《骨髄バンク》の啓発と白血病は克服した私を宮崎から発信するのが目的です。見た目では分からない体調不良・体力に自信もない私でしたが、昨年12月9日(日)に開催された「第32回青島太平洋マラソン2018」で、2人の伴走者とともにようやくフルマラソンを完走し、長年の夢・チャレンジに成功しました。

独りでなければ出来る事がありません。これからも私は、ドナーさん達の勇気に負けないくらい色々な事にチャレンジし続けます。

(みやざきの会 豊永由希恵)



写真右から3人目：手を振る豊永由希恵さん

各地のたより

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

兵庫

骨髄バンク支援クリスマス コンサート 2018 西播磨高校生バンドコンテスト

去る2018年12月22日(土)に、姫路地区骨髄バンク推進センター主催で恒例のクリスマスコンサートを多くの団体のご協力のもと開催しました。

一昨年より、高校生主体で軽音楽をしている生徒さんたちに出演していただきコンテスト形式でおこなっております。一昨年は4校5組のグループでしたが昨年は8校8グループが出演していただきました。



来られたお客様の1票も採点されるので、多くのグループ応援隊に来ていただき一昨年以上に盛りあがりました。結果は、以下のとおりでした。

- 1位 姫路地区骨髄バンク賞 兵庫県立姫路工業高校の(おにぎり)「ああ無情」
- 2位 国際ソロプチミスト姫路賞 姫路市立琴丘高等学校(コーヒータン)「海の声」
- 3位 姫路さくらライオンズクラブ賞 兵庫県立姫路南高校(爽人)「天体観測」
- 4位 神戸新聞社賞 淳心学院中学・高等学校(Quadrophonia)「Beatlesメドレー」

入場者300名ほど来られ、骨髄バンクにも少し関心をもっていただけたのではと思っております。

(姫路推進センター 濱田恵子)

山形

5月18日(土)天童市で全国大会 皆さまの来県を お待ちしております

全国大会のパネルディスカッションは、5月18日(土)の14時30分から、「人生のターニングポイント～私の歩んできた道、そしてこれから～」というタイトルのもと開催いたします。

初めに山形大学医学部内科学第三講座主任教授の石澤先生から、血液・細胞治療の専門家としてお話して頂きます。そして、ご自身が再生不良性貧血によりドナー提供を受けられ、現在は「EnGene」というバンドでプロとして音楽活動をされている清野慎一さんと、18歳の時に多発性骨髄腫を発病し、当時13歳の弟さんからドナー提供を受け兄弟間移植を経験されました布施涼さん。お二人には当時の事とサバイバーとしての生き方についてお話を伺って参ります。

続きまして小野卓也さんと佐藤大輔さん。お二人ともドナー経験者であり、その時の体験を様々な場面で発信されております。また、佐藤大輔さんはご自身が経営者ということで、骨髄移植ドナー助成制度に関して経営者的な立場としてのお話も伺いたと思います。

非常に盛沢山の内容とはなりますが、それぞれ違った視点で進めて参り

たいと思っております。必ずや多くの学びと気づきを皆様にご提供できるものと確信しておりますので、ご聴講の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

(骨髄バンクを支援するやまがたの会 運営委員 山科 慎治)

基金給付を受けた方からの メッセージ

佐藤さち子記念 造血細胞移植患者支援基金

この度は息子に造血細胞移植患者支援基金の助成をいただき、本当にありがとうございました。心より感謝しております。家庭事情など考慮の上、対象と認めていただきとてもありがたい

事です。9月に退院し日々過ごしておりますが、その後保険適用外の薬の服用などがあり、経過ごとに増量にもなり、新たな治療手段も取っております。6月の移植で安心できるものかと思いましたが、現実には厳しい状況です。これからも望みは捨てず、こうしてご支援していただける方がたくさんいらっしゃることを心に留めつつ治療に専念していきます。関係者の皆さま本当にありがとうございました。

(近畿地方在住)

訂正とお詫び

全国協議会ニュース319号のご寄付一覧にお名前間違いがありました。正しくは以下のとおりです。お詫び申し上げます。

櫻井康司様 現金 30,000円

心からのご寄付に感謝申し上げます ● 12月21日～1月20日(敬称略)

●一般	青野 文仁 現金 2,000円	犬塚瑛慈 現金 5,000円
株式会社エアネット	江上 義紀 現金 10,000円	杉山みちえ 現金 5,000円
現金 489,000円	ダブルエスタイガー	築瀬 知雅子 現金 5,000円
三井化学株式会社	現金 30,000円	庄子 敏子 現金 5,000円
ちびつとワンコイン	箱根駅伝宮ノ下募金箱	後藤 幸子 現金 10,000円
現金 200,000円	現金 51,894円	●白血病患者支援基金
三井化学株式会社 現金 200,000円	小田原有志 現金 2,514円	金原 厚 現金 10,000円
豊島区明るい社会づくりの会	匿名 現金 5,000円	匿名 現金 10,000円
現金 50,000円	●佐藤さち子患者支援基金	伊奈川 陽子 現金 3,000円
ガロのお客様 現金 5,040円	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構	●募金箱
「ガロ」マイステージボックス	現金 26,465円	株式会社クスのアオキ
(君和田・三橋・山口・進藤・石山・矢野・高村・菅野)	匿名 現金 2,000円	現金 347,650円
現金 7,050円	匿名 現金 20,000円	やきとり「おぼこ」
●志村大輔基金	現金 5,000円	現金 5,000円
藤波 敬子 現金 10,000円	志村哲夫 現金 5,000円	●つながる募金
加藤 一 現金 20,000円	志村励子 現金 5,000円	現金 1,700円
中田 慎一 現金 64,000円	犬塚亜希子 現金 5,000円	

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会